

# 事業報告書

令和4年3月31日  
一般社団法人スポーツアズライフ八戸  
代表理事 金濱 亨

第2期事業年度(令和3年度:2021年~2022年)の事業報告について、目標に対する評価を下記にまとめた。

★評価指標 A:十分達成したと言える状況 B:達成まで課題がある状況 C:まだまだ努力が必要な状況

## 1 経営目標と評価

### (1)マネジメント・ガバナンスについて

- ①公明正大な法人運営の基盤の精度を高め、法人や法人の理念における認知度向上を図るとともに、財務において年度黒字化を達成すること。  
●評価報告(A):多様なオウンドメディアを通じた情報公開及び会員への丁寧な情報発信が出来た。年度黒字をわずかに下回り、持続可能な財務課題の克服は今後の更なる課題だと感じているが、大きな改善が見られ今後の希望を感じる経営が出来た。
- ②法人事業として該当する活動について、関係諸機関や団体と積極的な協働連携を図り、適宜理事会での審議議決を以って迅速に試行錯誤しながら挑戦すること。  
●評価報告(A):様々な関係諸機関との連携が求められる段階に入ってきたが、状況に応じてオンラインで迅速な対応、情報発信、審議議決を持ちながら、法人事業全体に取り組むことが出来た。

### (2)具体的な事業活動について

- ①今年度より開始する横断型新事業「クラブ運営プロジェクト(総合型地域スポーツ・文化クラブデポルターレ八戸)」の運営に最大限コミットしクラブ運営の基盤を整える。  
●評価報告(A):初年度としてクラブ活動の運営基盤を整えることが出来た。詳細について、諸所課題はあるが、今後の随時更新改善ができるものとする。
- ②当法人のオリジナル事業であるスケートツーリズム・スケートレクリエーションに関する広告及び活動を2件以上実施する。  
●評価報告(C):広告及び活動について実績0件となり、今後の大きな課題である。事業としては長期的に今後も継続すべきと使命を感じているため、創意工夫のもと、次年度課題を引き継ぎたい。
- ③その他法人事業に該当する事業活動について、随時状況を見ながら理事会開催(必要に応じて総会開催)による意思決定を以て、実施可能な範囲で取り組む。  
●評価報告(A):コロナ禍の中、特に総合型クラブの活動について臨機応変にオンラインイベントを計画実施できた点で多大に評価できる運営体制であったと評価する。

## 2 法人事業についての詳細目標

当法人が定款第3条2項に掲げる法人事業を具体化した以下6つの事業(視点・分野)に重点的に取り組んだ。

### (1)地域スポーツ推進事業

氷都八戸を標榜する活動拠点である八戸市の冬季スポーツ推進に係る活動を展開する。

①スケートツーリズム・スケートレクリエーションに関する広告及び活動を2件以上実施する。

●評価報告(C)：広告及び活動について実績0件となり、今後の大きな課題である。事業としては長期的に今後も継続すべきと使命を感じているため、創意工夫のもと、次年度課題を引き継ぎたい。

②総合型クラブデポルターレ八戸の活動をとおして、スケート競技の普及発展に資する活動を行う。

ア 6回以上のスケートサークルの定期開催

●評価報告(B)：計4回実施出来た。参加者にも大変好評であった。コロナ禍の影響で目標回数を達成できなかったが、次年度以降の活動基盤が出来た点で大変満足している。

イ デポルターレ八戸 SC ノービスカテゴリのチーム運営：全競技会参加及び選手の自己ベスト全員更新

●評価報告(A)：個別の事情を考慮しながら、各競技会参加及びほぼ所属選手全員の自己ベスト更新を達成することが出来た。チームとしての詳細イベント等も実施しながら、大変好評なチーム運営が出来た点を大いに評価している。

### (2)生涯スポーツ推進事業

総合型クラブデポルターレ八戸のサークル活動をとおして、レクリエーションを主目的にした生涯スポーツのコミュニティを市民に提供する。

ア 常時月に4種目以上の多種目サークルの定期開催

●評価報告(A)：コロナ禍の不可抗力を除いては、目標達成できた。年間実施では、計9種目46回のサークルを実施出来た。

イ チーム活動以外のスタッフ会員10名、利用会員30名の入会

●評価報告(B)：限定的な条件を満たすチーム活動(R3はD8SCのみ)以外の会員数はスタッフ会員6名、利用会員は8名であり、今後の会員数増は今後の課題である。しかし、やみくもに会員数増が良いわけではなく、価値を届けられる適正規模を見極め、今後の法人運営と事業展開が必要と認識している。

### (3)アスリート育成事業

総合型クラブデポルターレ八戸のチーム活動をとおして、持続可能な成長を見据えた競技者育成を行う。

ア デポルターレ八戸 SC ノービスカカテゴリのチーム運営：全競技会参加及び選手の自己ベスト全員更新

●評価報告(A)：個別の事情を考慮しながら、各競技会参加及びほぼ所属選手全員の自己ベスト更新を達成することが出来た。チームとしての詳細イベント等も実施しながら、大変好評なチーム運営が出来た点を大いに評価している。

イ スケート競技以外のチーム運営開始の準備を行う。

●評価報告(B)：実際の運営は出来ずにいたが、スケートチームのノウハウを横展開するための準備を実施することが出来た点で評価できる部分もある。

### (4)アスリート実践事業

正会員メンバー自身が各種競技会へ積極的にエントリーし、法人理念を体現する姿を広く見せる。

ア 正会員全員が1回以上の競技会エントリー・アスリート活動を行う。

●評価報告(A)：個別により複数競技・単一競技の違いがあるが、目標を達成した。

イ 「スポーツアズライフ八戸」の競技者登録を増やし、ユニフォームによる宣伝活動を行う。

●評価報告(A)：スピードスケート競技及びウエイトリフティング競技において、ユニフォームを作成し競技会エントリーを実践できた。

#### (5)スポーツツーリズム事業

特に氷都八戸におけるスケートツーリズムの概念を宣伝し、関係機関へ周知すると共に、実際の観光客に対するスケート観光事業を1件以上提供する。

●評価報告(C)：広告及び活動について実績0件となり、今後の大きな課題である。事業としては長期的に今後も継続すべきと使命を感じているため、創意工夫のもと、次年度課題を引き継ぎたい。

#### (6)イベントプロデュース事業

関係スポーツ団体や行政機関等と連携し、当法人目標達成及び法人事業に該当するスポーツの普及振興関わるイベント事業のマネジメントを1件以上行う。

●評価報告(A)：県教育庁スポーツ健康課スポーツ振興グループ担当の「みんなが主役!スポーツで健康づくり事業笑顔でおやこ体操教室」を受託、コロナ禍の影響により全四回計画を完遂できなかったが、2回実施することが出来た。また、コロナ禍により対面の活動が出来ない時期にD8活動としてオンラインイベント計13回(うち文化的活動8回)を実施出来た。特に文化的な活動については、今後の継続実施に繋がる試行錯誤が出来た点で大いに評価出来る。

これ以上の詳細の活動の具体化については、理事会での審議と決議を以って業務の執行にあたってきた点を最後に報告する。

### 3 コロナ禍の法人活動にあたり

(1)コロナ禍(COVID-19の世界的パンデミック)の活動にあたり、国や地方自治体等の感染症対策指示に従うことを優先する。

(2)当法人の事業においては、適宜感染症対策についてのアナウンスを行うとともに、具体的な感染拡大予防行動を正会員・スタッフ会員を中心に徹底して実践する。

(3)随時、社会状況を踏まえた事業実施の審議・判断を行い、理事会の意思決定に基づき業務執行に当たる。

●評価報告(A)：関係の地方自治体(県庁や県教委、市庁や市教委)、行政機関(各公的スポーツ施設等)等の公式アナウンスを基に、適宜柔軟に状況判断し、活動の実施・中止等を判断できた。クラブ内でのクラスター発生等を起こすことなく活動をしながら会員から一定の評価を得られることが出来た点は評価できると考えている。